

○カルゲート錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 デノパミン denopamine 【分類】 心機能改善剤

【単位】 ▼5mg・○10mg/錠

【常用量】 10～30mg/日

【用法】 分3

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (透析会誌 23:669,1990)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (透析会誌 23:669,1990)

【特徴】 $\beta 1$ 選択性刺激薬で心収縮能増強作用を持つ。心拍出量を増加し、末梢血管抵抗を下げる。心収縮能増強を示す用量では心拍数、血圧に影響が少なく、心拍数増加作用は isoproterenol の約 1/3 [ネコ]。透析中の低血圧防止に透析前と透析開始 2 時間後に 10mg ずつ投与で、有効という報告あり (透析会誌 3: 669, 1990)

【主な副作用・毒性】 頻脈、不整脈、胸痛、嘔気、嘔吐、発疹など

【tmax】 1hr (1)

【代謝】 酸化的脱メチル化、芳香環の水酸化に伴う水酸基のメチル化とこれらのグルクロン酸あるいは硫酸抱合化により代謝 (1)

【排泄】 尿中回収率 30～40%で、未変化体とそのグルクロン酸あるいは硫酸抱合体が約半量で、残りは脱メチル化体と芳香環の水酸化体の抱合体 [po, 24hr まで] (1) 未変化体の排泄率は 5%程度 (1) 【CL/F】 166L/hr (1)

【t1/2】 4hr (1) 【透析患者の t1/2】 腎機能正常者と差がない (透析会誌 23:669,1990)

【蛋白結合率】 42.9% (1)

【Vd/F】 計算上 800～1000L/man (5) であるがおそらく F が低い (5)

【MW】 317.38

【透析性】 データなし (1)

【TDM のポイント】 有効治療域 10～15 $\mu\text{g/mL}$ (16) 強心剤の中では比較的安全な薬物であるため TDM を行う必要はない 【O/W 係数】 1.9 [クロロホルム系/pH8]

(1) 【pKa】 8.2, 10.0 (1)

【更新日】 20150825

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。